

## 平成31年度 年間授業計画

- 1 学年・科目・単位数  
第1学年 数学I 3単位
- 2 担当教員
- 3 教科・科目のねらい  
中学までの基礎力を再度確認し、高等学校の数学に取り組める力を年間を通じて育成する。
- 4 年間授業計画

学期	単元（授業内容／時間）	重点項目	評価の観点
1	数と式 ○整式 ○実数 (15～21時間)	○中学の復習を交え、文字を含む式の計算が出来るようにさせる。 ○式の展開と因数分解が円滑に行えるよう指導する。	○概念の理解と計算の正確さ。 ○日常的な学習習慣の育成。
	三角比と図形 ○三角比 ○三角比の相互関係 ○面積 (17～22時間)	○三角比の概念を理解させ、計算が出来るようにさせる。	○概念の理解と計算の正確さ。 ○日常的な学習習慣の育成。
2	○正弦定理・余弦定理 数と式 ○方程式と不等式 (15～21時間)	○やや発展した三角比の計算が出来るようにさせる。 ○1次方程式、1次不等式が解けるよう指導する。	○概念の理解と計算の正確さ。 ○日常的な学習習慣の育成。 ○工業科目に通じる数学力の育成
	2次関数 ○関数とグラフ ○2次関数の値の変化 最大・最小値 グラフと不等式 (17～22時間)	○2次関数の概念を理解させ、グラフの作成が出来るようにさせる。 ○2次方程式、2次不等式の概念を理解させ、グラフと計算の関係を学ばせる。	○日常的な学習習慣の育成。 ○関数式とグラフの関係理解。 ○工業科目に通じる数学力の育成。
3	集合と論証 ○集合 ○命題と論証	○集合に関する基本的な用語・記号を理解させる。 ○必要条件・十分条件について理解させる。	○概念の理解と計算の正確さ。 ○統計の基本的な考え方の理解。 ○工業科目に通じる数学力の育成。
	データの分析 ○データの整理 (20～27時間)	○与えられたデータから分散や標準偏差を求められるよう指導する。	

- 5 使用教科書・副教材他  
高校数学I新訂版（実教出版）・高校数学I新訂版スタディノート（実教出版）
- 6 評価方法・観点

各定期テスト（100点×5回）・授業態度（20点）・提出物の提出状況（10点）・出席状況を総合的に点数化し、度数分布に基づき5段階評価をする。

※なお、上記は予定であり、行事等により一部変更になることがある。